

# ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	甲藤 さち
主な担当科目	楽器研究,実技個人レッスン〔器楽Ⅰ①,器楽Ⅰ②,器楽Ⅰ③,器楽Ⅰ④,器楽実技Ⅱ④,器楽②〕
シラバス	<a href="#">ここをクリック(本学ポータルサイトトップページが表示されます。)</a> ※画面下「シラバス」>「シラバスを検索するにはこちらをクリックしてください。」をクリック
2023年の教育目標・授業に臨む姿勢	コロナ禍が治ってくるにつれ、学生の修学意欲がだんだんと上がって来たという感触を捕まえ、積極的なアンサンブル指導や実技レッスンを試みた。世界の不安定な情勢に対し、音楽を学ぶことでそれぞれの学生が将来どのような形で社会貢献ができるのか、一緒に考え、話し合う機会を作るように努めた。また、学生の心身の健康面にも気を配る必要を感じ、日頃の生活管理や前向きな考え方も指導した。
2023年の教育に関する自己評価	個人レッスンについては、昨年より更に個々の資質に寄り添う指導ができた。8月本校キャンパスにて開催された第21回日本フルート・コンヴェンションでフルートアンサンブルが重要なステージを務めるにあたり、サークルとしての活動やコンクールに参加する学生に対するレッスンに力を注いだ。新入生の中に不登校者が続出したが、合奏授業やサークルのアンサンブルを通して、助け合いや自分の役割に責任を持つことの重要性を指導できたと思う。オーケストラ授業で指揮を担当し、他の指導教官と連携して深い指導ができた。
2023年のFD活動に関する自己評価	学生による授業アンケートについて、FD委員の弦管打部会の先生方と、実技系の授業への回答の方法(学生へのアドバイス)について話し合った。学内におけるハラスメントや教育の場でのマイノリティ問題(ジェンダーを含む)について学生との議論も交えながら考えた。留学生への対応、また、本校の大学院の在り方についても、積極的に先生方と連携を取り、良い方法を模索した。
授業改善のために取り入れた研修内容	コロナ禍を経て、精神的に弱くなっている学生の教育成果を上げる方法について検証し、学生同士のコミュニケーションの重要性について指導した。基礎ゼミでの学生のプレゼンについてジェンダーマイノリティを考慮する事を話し合った。男子学生を「さん付け」で呼ぶ習慣について、又、クラシック音楽において、男性的、女性的といった表現に代わる言葉について学生と議論した。

## 2023年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:1906 教員名:甲藤 さち

### 1) アンケート結果に対する所見

学生達にとって、今の実技授業に対しての熱量が相応しいものであるという確認ができて安心した。室内楽では学生相互でも柔軟にコミュニケーションが取れており、音楽の内容を楽しみながら授業が進められたと思う。

### 2) 要望への対応・改善方策

個々の学生にとって、今、一番学びたい事は何かを話し合い、又、課題を一緒に鑑賞することによって細やかに検証すると共に、逐次、レッスンについて充足感の聞き取りをする等、引き続きコミュニケーションの充実を意識していきたい。

### 3) 今後の課題

更に細やかにそれぞれの個性やレベルに合った課題を幅広く研究し、技術の進歩や音楽への造詣が在学中に深められた事を卒業時に学生自身がしっかり実感できるよう寄り添って参りたい。大学時代にフルートを学んだ事が、それぞれの生涯を通して生活に豊かさを齎し、人間的魅力を深める事ができる様、引き続き導いて行きたい。

以上